



TITLE:

經濟漫録(五)

AUTHOR(S):

瀧本, 誠一

CITATION:

瀧本, 誠一. 經濟漫録(五). 經濟論叢 1918, 7(5): 712-714

ISSUE DATE:

1918-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127449>

RIGHT:

經濟漫錄 (五)

瀧本誠一

(五四) 他人ノ著書ヲ了解スルノ難事^リかあどノ
原論ガ出版セラレタル當時彼ハ謂ツテ曰ク、余
ノ著書ヲ讀ンデ能ク其ノ意味ヲ理解シタル者ハ
英國中ニ於テ恐ラクハ二十五人以上ハ之レアラ
ザルベシ^uト、宜ナル哉世界各國ノ學者多クハ
皆彼ヲ誤解シ、遂ニ經濟學者ノ中デ、彼レホド
多ク誤解サレタルモノナシト迄評セラル、ニ至
ツタノデアル、粗讀未讀ハ固ヨリ論外トシ、如
何ニ精讀熟讀シテモ、眞ニ能ク他人ノ著書ヲ了
解スルコトハ中々容易ノ事ニアラス、豈啻ダリ

かあとノ原論ノミナランヤ。

五五學海ノ二大損失 余ハ經濟學史ノ爲メ常ニ遺憾トスル所ノモノアリ、余カ平素最モ尊重スル學者ノ中デ二人マデ其ノ著作ノ原稿ヲ亡失シテ遂ニ世上ニ傳ハラザリシコト是レナリ、即チ其ノ一ハ既ニ(二四)一寸記シタル如クくりつふ、れすりる(Chiff-Juste)ガ英國經濟法制史ノ原稿ヲ佛國漫遊中ニ亡失シタルコトト、他ノ一ハ急ぎわあど、どうダ(Dove)ノ政治學第三冊ノ紛失デアル、れすりるハ英國歴史派經濟學者ノ先覺トシテ學界ニ知ラレタル人デアツテ、其ノ「論文集」及「土地制度及工業經濟」ト題スル著書ヲ一讀スレバ、彼カ亡失シタル「英國經濟法制史」ガ如何ニ貴重ナルモノナリシカハ想像スルニ餘リアラン、又どうダハ餘リ世上ニ知ラレザル人ナルモ、彼ハへんりゐ、じようじノ先驅者デアツテ、じよふじヨリ殆ンド半世紀前ニ、最モ明白精確ニ土地ノ單稅說ヲ主張シタル學者デアル、彼ガ著書「人間ノ進歩ニ關スル學說」ハ非常ノ卓見ヲ發表シタルモノデ、とます、かあ

らいる。うゐりやむ、はみるとん。ぶらつきゐ
教授及ちやれす、さんなあ等ノ諸大家皆口ヲ極
メテ之ヲ稱讚シ、へんりゐ、じようじモ亦其ノ
著「難解哲學者」ニ於テ自家ノ學說ガどうダニ負
フ所少ナカラザルコトヲ明言シテ居ル位デア
ル、彼ノ遺著ハ前記ノ外ニ「政治學原論」ト題ス
ルモノアリ、千八百五十四年ゑじんばるニ於テ
出版シタルモノデ、此ノ書ハ本文ハ菊版二三〇
頁ニ涉リテ政治經濟學說ヲ論シ、就中所有權問
題ニ關シ、政治學ト經濟學ト分歧スル點ヲ明ニ
シ、又土地ト人口トノ關係ニ付キテハまるさす
ノ說ヲ根本的ニ非認シ、續キテ最モ精細ナル地
代論ニ説キ及ボシタルガ如キハ皆一讀ノ價值ア
ルモノデアル、三三〇頁ノ本文ノ外ニ各々七〇
頁ノ論文二篇アリ、一ハ Moral Dynamics ト題
シ人間行爲ト社會制度トノ關係ヲ哲學的ニ論述
シ、他ノ一ハ Andrew Yarranton ヲあだむすみ
すヨリ一百年以前ニ於ケル英國經濟學ノ開祖ト
シテ、其ノ傳記及著書ヲ批評シタル珍奇ノ論文
デアル、故ニ此ノ「政治學原論」ハ總計四百七十

頁ノ著作ナルガ、本書ハ前記「人間ノ進歩ニ關スル學說」ノ第二冊ヲ形成スルモノデ、此ノ外ニ其ノ結論ト認ムベキ第三冊ガ既ニ脱稿シテアツタナレドモ、ソレハ著者ノ生存中出版ニ先キ立チテ、何レニカ紛失シテ仕舞ツタトノコトデアル、現存ノ二書⁽³⁾中ニハ今日ノ經濟學說トシテハ取ルニ足ラサル僻說モ少ナカラザレドモ、

著者ハかあらゐる、はみるとんナドノ稱讚ニ値ヒスル卓見家ノコトナレバ、最後ノ第三冊中ニハ或ハ嶄新奇拔ノ學說ニテモ現ハレ居タランカト想像セラレ、何トナク物惜シク感ズレドモ、ソレハアツタラ却テ乙姬ノ玉手篋デアツタカモ知レナイノデアアル、兎ニ角何レニシテモ學界ノ爲メニハ遺憾ノ極ミデアアル。

(五) 腰拔役ト日蔭奉公 代官ハ治民ノ役ニテ重大ノ職務ナリシモ、戰國ノ時分ニハ皆文官ヲ賤ミテ腰拔役ト云ヒタルヨリ、今モ尙ホ重要ナル地方ノ支配ニハ小身者ヲ用エルコト也云々ト徂徠ノ「政談」ニ見ヘシガ、「昇平夜話」ト云フ書ニモ亦「家中番頭物頭ヲ初メ諸番士ヲ以テ表向

ノ奉公ト云ヒ、勝手方ノ役人ハ日蔭奉公ト云フコトニテ、壯年ノ者ナドハ右類ノ役ニ撰ル、義ハ願ハシク思ハザル様ニ聞ヘタリ」ト記セリ、經濟財政ノ局ニ當ルモノヲ腰拔役トシ日蔭奉公トナシテ、之ヲ蔑如スルニ至テハ將何ヲ以テ國家ノ發達ヲ圖ランヤ。

(五七) 銀行類似ノ營業 豐臣家譜(林羅山撰)ニ曰ク奈良町人借ニ金銀ニ償ニ高利ニ者有レ之、人競借ニ與之、甲來求レ利則以ニ乙金銀ニ加レ利而返レ之、乙來又乞レ利則以ニ丙丁等金銀ニ倍蓰而附レ之、遂使金銀積ニ道路、其徒數十人富而紛奢、然其畢竟不知レ爲ニ如何、蓋其實者得ニ一旦之利ニ而有ニ後日之害、是與ニ穿窬ニ不レ異、秀吉聞レ之磔ニ奈良町人數十人ニ云々トアリ、是レハ正シク奈良町人ガ民間零細ノ資金ヲ吸集シテ之ヲ運轉利殖シタノデアツテ、其ノ實穿窬デモ何デモナク、正當ニ今日ノ銀行ノ如キ業務ヲ營ミ居タルモノナルベシ、之ヲ磔刑ニ處スルトハ又甚タシキニアラズヤ。

(五八) 問屋ノ本職 民間省要⁽⁴⁾ニ「昔シハ諸國ニ問

(3) 此ノ外ニ宗教哲學ニ關スル三四ノ著作アル由ナレドモ余ハ未見
(4) 田中邸閨著ナリ日本經濟叢書第一卷ニ收ム

丸ト云フコトアリ、商賣交易ノ事ナドヲ問フ、上ヨリモ問ヒ下ヨリモ問フコトナレバ、此名アリト云ヘリ、市中ニテハ皆此所ノ令ヲ聞キテ賣買ノ法ヲ定ム、今是ヲ問屋ト云フ」ト記ルシ、ソレヨリ「問屋ハ民間ノ重役ナリ、今其ノ職ニ居ル人ヲ撰マズ、名々勝手ニ開業シテ國家ノ公益ニハ少モ構ハス、自家ノ利ヲ計ルノ外他事ナシ」ト述ベテ居ルヲ見レバ享保以前ニハ問屋ハ市ノ公職ノ如キモノデアツテ、單ニ個人營利ノ業務ニハアラザリシモノト見ユ。

五九ちゆるぐうノ支那趣味 有名ナルちゆるぐうノ *Reflexions* ハ二人ノ青年支那人ノ爲メニ書カレタモノナルコトハ二六ニ記セシガ、頃日フト Say ノちゆるぐう傳ヲ閱スレバ、一七六一年ニ彼ガリもリテノ財政監督ニ任セラレタルトキ、友人ヲをるてゐるニ一書ヲ送り「自分ハリもリテヨリハ寧ロぐれのおふるニ赴カンコトヲ希望シタノデアル、其故ハ同地方ナレバ孔夫子ノ聖廟ニ參詣シ、此ノ大聖人ノ事ニ就キ研究ヲ遂クルノ便ヲ得ベケレバナリ」ト云ツテヤツタ

トノコトデアル、當時ぐれのおふるハ支那貿易ノ中心地カ何ニカデアツタコトナルヤ知ラザレドモ、兎ニ角ちゆるぐうハ支那研究ニハ多大ノ趣味ヲ有シテ居ツタモノト思ハル。